

山間部教育の現状視察

設備の充実 名大院生の留学生ら ぶりに関心

名古屋大学の大学院で教育学を専攻する院生が8日、阿智村の清内路小学校を視察に訪れ、山間部教育の現状を耳聞きした。

主に発展途上国の教育を研究テーマにしてアの留学生を含む10人いる学生たちが、日本の多様な教育現場を訪問する取り組みの一環。阿智村には2008年、09年にフィールドスタディーで訪れて

おり、中国とカンボジアの留学生を含む10人が、村の紹介で清内路小を視察した。当初の予定では児童37人と楽しく交流しながら学校の様子を知る計画だったが、インフ

ルエンザの影響で直接的な触れ合いは中止に。教室の外から授業の様子や各教室の設備を見学し、給食を味わったほか、校長・教務主任との懇談から、教職員の努力や児童の取り組みを学んだ。



授業を見学する名大の院生（清内路小で）

ロシア人留学生の女性「理科室をはじめと設備の充実ぶりに興味を示した。」

国とは違つ」と、特に設備の充実ぶりに興味を示した。コンピュータ室のパソコンや周辺機器を見た中国人留学生は「都市と山村、児童数に關係なく機材が充実していることに驚いた。中国の友人に写真を見せたら絶対びびくりする」と話していた。

午後には住民ガイドの案内で地区内を歩いて回りながら、清内路の暮らしに触れ、3軒の農家民宿で一夜を過ごした。

雪害対応をよりの確に

孤立対策 など明記 飯田市がマニュアル策定

飯田市は8日、これ雪を7回観測している。近年では2001

画には雪害対策が記載されている。11年度中に雪害対応マニュアルに沿った内容で雪害対策編を加える予

発令し、災害警戒本部を運営する。大規模な雪害が発生または発生するおそれがあるとき

は、全職員（約500人）を第2配備し、関係機関との合同災害対策本部を設営する。

孤立対策では、01年に孤立集落が発生した南信濃をはじめ上村、千代、龍江、上久堅、下久堅、三穂、山本地区の計48集落の孤立が予想されるとし、必要に応じ県消防防災ヘリコプターによる救援物資輸送や孤立住民の救出要請などの具体的な対応を明記している。

までは風水害などにおける職員防災マニュアルを準用してきた雪害に、よりの確な対応を

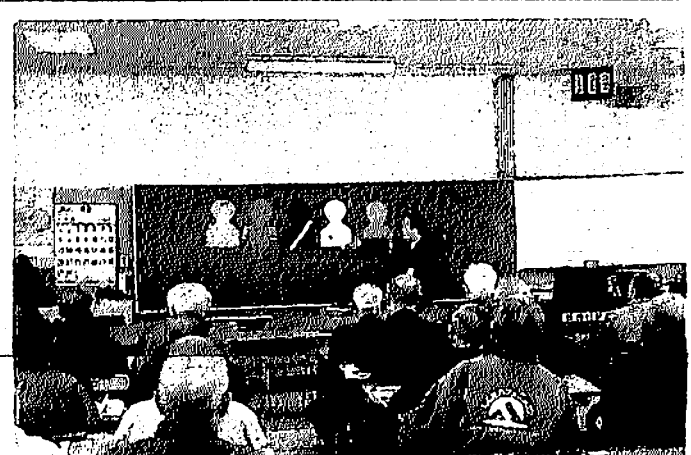
1位となる56センチの積雪を記録したため、市は災害対策本部を設け

策定した雪害対応マニュアルによると、24時間降雪の深さが30

は、全職員（約500人）を第2配備し、関係機関との合同災害対策本部を設営する。

孤立対策では、01年に孤立集落が発生した南信濃をはじめ上村、千代、龍江、上久堅、下久堅、三穂、山本地区の計48集落の孤立が予想されるとし、必要に応じ県消防防災ヘリコプターによる救援物資輸送や孤立住民の救出要請などの具体的な対応を明記している。

展示紹介も 館文化祭盛況に



夜光反射材の効果を学ぶ参加者

一層交通安全意識の高し、安全な横断方法を揚を図ろうと実施。横断歩行トレーナーによる道路横断体験では、車の接近するスピードを確認した。参加者は「自分の認識よりも車のスピードは速かった。車が見えた時には横断を止めたほうがいい」と、声をそろえていた。